

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2017年11月」

2017年

- 11月1日 午前0時46分頃、鹿児島湾を震源とする地震が発生。地震の規模(マグニチュード)は3.7と推定。鹿児島市喜入町などで震度4。
- 11月1日 中部電力が、浜岡原発3~5号機の原子炉建屋への雨水流入対策で、と報告した201件以外に4号機で8件の報告漏れがあったと発表。台風22号の際、止水対策ができていなかった貫通部から建屋内に雨水が入った。
- 11月1日 東海第二原発について、原子力規制委員会が、新規規制基準に基づく審査会合を開催し、年明けにも、新基準に「適合」との判断を示す「審査書案」を公表する見通し。
- 11月1日 原子力規制委員会が、三菱重工業と仏アレバが出資し、濃縮ウランを加工して原発の核燃料を製造する「三菱原子燃料」の施設が新規規制基準に適合したとする審査書を決定。
- 11月1日 東京電力の小早川智明社長が、福島第二原発の廃炉について、柏崎刈羽原発再稼働とは分離して判断すると表明。
- 11月1日 静岡県が、定期的実施している環境放射能の調査結果を公表。中部電力浜岡原発周辺の松葉とイセエビの2種で放射性セシウムの最大値が東日本大震災前の変動幅を上回った。東京電力福島第1原発事故の影響とみられる。
- 11月2日 午後10時31分頃、茨城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模(マグニチュード)は4.3と推定。福島県白河市、泉崎村などで震度3。
- 11月3日 午後0時45分頃、北海道十勝沖を震源とする地震が発生。地震の規模(マグニチュード)は5.1と推定。北海道浦幌町で震度4。
- 11月3日 東京電力柏崎刈羽原子力発電所の30キロ圏内に入る見附市で、原発事故を想定した避難の手順を確認する訓練を実施。
- 11月3日 午後9時38分頃、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模(マグニチュード)は4.9と推定。福島県矢祭町戸塚、矢祭町東館、古殿町松川新桑原、いわき市錦町などで震度3。
- 11月6日 定期検査中の伊方原発3号機で、外部電源の喪失に備えた非常用ディーゼル発電機の起動試験の際、過熱した弁を冷やすための冷却水ポンプが自動停止。四国電社員が発電機自体を手動停止。

- 11月7日 フランスのユロ環境相が、原発依存度を現在の7割超から5割に引き下げる目標の達成時期を2025年から先送りする考えを明らかにした。
- 11月7日 東海第2原発の過酷事故を想定した広域避難計画の住民説明会が、常陸大宮市で開始。参加した市民からは避難経路確保、避難先でのコミュニティ分断の不安など、要望や質問が相次いだ。
- 11月8日 四国電力が、伊方原発から半径20キロ圏内の愛媛県伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市の計約2万8千戸を対象に戸別訪問を開始。使用済み核燃料を保管するために原発敷地内に設置する方針の乾式貯蔵施設や、3号機の定期検査、1号機の廃炉計画を説明する。
- 11月8日 日本原子力発電が、東海第二原発の新規制基準に基づく審査会合での指摘を反映した最終書類を原子力規制委員会に提出。
- 11月8日 九州電力玄海原発3、4号機の再稼働に反対する住民が、原子力規制委員会に運転停止命令を出すように求めた訴訟で、九電も佐賀地裁に訴訟参加を申し立てた。参加が認められれば、九電は安全性を主張する方針。
- 11月9日 原子力規制委員会が、原発を運転している電力会社や電気事業連合会の担当幹部らを招いた会議で、神戸製鋼所の品質データ改ざん問題に関連し、「(2件以外に)不正が確認された製品は、原子力施設では使われていない」と述べた。
- 11月11日 午前1時38分ごろ、宮城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模(マグニチュード)は4.9と推定。宮城県塩竈市で震度4。
- 11月12日 東京電力が、福島第一原発3号機の原子炉建屋最上階に、使用済み燃料プールにある燃料の取り出し装置を設置。3号機のプールには566体の燃料が残っている。2018年秋ごろ、取り出し開始予定。